

耳よりな話

N.52

平成 27 年 1 月 28 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

◎消費税増税延期に伴う年金は？

予定していた消費税 10%への引き上げに伴って、年金関係法が施行されることになっていましたが、増税延期になった結果下記のとおりとなります。

(1) 年金受給資格期間の 10 年への短縮

現行制度では年金受給資格期間は 25 年以上が必要で、それを 10 年に短縮することになっていましたが延期となりました

(2) 低所得年金受給者に月 5,000 円支給する予定の「年金生活者支援給付金」は延期する

“物分りの良い大衆迎合型評論家”は、低所得者のために 5,000 円の支援給付金は実施すべきと言っていますが、もう少し考えてみる必要があります。

確かにこの低所得年金の受給該当者は気の毒であることに間違いありません。対象者は約 800 万人と予想され、必要財源は 5600 億円です。しかしこれらの該当者は支払義務のある国民年金保険料を“制度の無知”か“経済的理由”、はたまた“意識的”に支払ってこなかった訳です。

他方、大多数の人は苦しいなかで自分の将来のために保険料を支払ってきました。決して全員が余裕のある人ばかりではありません。

例えば、最初のうちは両親が支払ってくれたものの、その後自分で払うよう強く言われて支払い続けてきた人、また夫に先立たれ子供を抱え苦しいなかでも保険料を支払ってきた人達は多くいます。

支援給付金の財源はもちろん税金からです。苦しいなかでもきちんと支払ってきた人はその財源をも更に負担する訳ですから、二重支払いすることになります。

社会保障や福祉分野ではこれで満足と言う限度はありません。真に必要な人以外には一定の自己責任、自助の精神が必要ではないでしょうか。

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。



徳川の天下を盤石にする意図により、徳川家康、秀忠、家光の3代にわたり、豊臣系大名を排除するために大規模な改易・転封を強行しました。

例えば豊臣恩顧大名、広島安芸城主の福島正則は幕府に無断で城郭改築したとの嫌疑をうけて改易されました。

肥後熊本城主、加藤清正の子息忠広は苛性や謀反の濡れ衣を着せられ改易させられました。このとき約80以上の大名が改易され、その石高はおよそ630万石でした。

そのうち大阪は幕府の直轄領（天領）となり、以後大阪城代が治めることとなりました。その他の領地は徳川家臣団である譜代大名が治めることになりました。

4代将軍家綱の時代にこうして改易された大名の家臣団が膨大な数の浪人となったことが社会不安の要素ともなり、その後未然に防止されたものの「由井正雪の乱」に結び付くことになったのです。

さらに、豊臣系外様大名だけでなく、徳川家一門にも幕府支配に不安定要因と懸念されていた人々がおりました。

家康の子である、松平忠輝（60万石）は不行跡により、家康の2男結城秀康の子である松平忠直（67万石）は乱行（菊池寛著…忠直卿行状記）により、3代将軍家光の弟、徳川忠長（55万石）は不行跡によりそれぞれ改易されています。

このようにして、徳川幕府の意図する支配が確立されていったのです。

しかしこの徳川家も260年後には明治新政府によって静岡の一大名にさせられ、その領地も70万石に減封されることとなります。

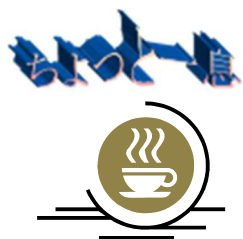
ついでに付記しますが、徳川家の直臣である旗本約5,000、御家人約17,000人のうち一部は新政府軍と戦いましたが、残りの直臣の家族を含めた80,000人のその後の生活は大変でした。

新政府軍の西郷隆盛と江戸城無血開城を交渉した勝海舟は、同時にこれら直臣の今後の生活に配慮しながら交渉したのです。

明治新政府の役人や警察官などに就職した人を除き、多くの幕臣は徳川家につき従い静岡に

移住しました。

その幕臣全員が徳川 70 万石の直臣になれた訳ではありません。今や日本一になった静岡茶の開拓には、それら幕臣の努力・苦勞が大きく寄与したと言われています。



第一生命が毎年「サラリーマン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

窓際で 部下に聞かせる 武勇伝

耳だこ

「意見言え」言ってやったら いらまれた

アララ

財布から 諭吉逃げ出す その速さ

踏んだり蹴ったり

やと愚痴 止んだと思えば すぐイビキ

宣茶

かけすてを 覚悟かくごで払う 教育費

お受験ママ

第二十回 第一生命サラリーマン川柳コンクールより